

1. 研究会名

Psytech^(*)研究会

*1)psytech（サイテック）とは：IT技術を使った新たな心理的支援。心理学を意味する“psychology”と、技術を意味する“technology”を組み合わせた造語

2. 研究テーマ

メンタルプロセス・マネジメント

3. 主査（氏名、所属）

三村 和子 臨床心理士・公認心理師・カウンセラー

4. 幹事（氏名、所属）

伊藤重隆、元みずほ情報総研
魚田勝臣、専修大学名誉教授

5. 研究テーマ設置の趣旨

本研究会では、プロジェクトマネジメントを構成するプロセスの1つである「メンタルプロセス・マネジメント」^(*)のための情報システムモデルを検討する。基礎情報学理論を基本とし、Psytech（情報並びに情報システムを通じた人間活動への心理的影響、情報社会の捉え方）を踏まえたメンタル・プロセスにフォーカスする。

『PMBOK®ガイド』第7版では、プロジェクトの成功指標となる価値が重視され、メンタルプロセスに関わる内容が多く盛り込まれている。IS技術者が自らの強みを活かしてプロジェクトで価値を最大化する過程において、イキイキとした心的エネルギーを保つことがいかに大切であるかということが示され、プロジェクトマネジメントにメンタルプロセスの位置づけが重要視されている結果であると考えられる。一方で、米国由来のPMBOK®をそのまま適用するだけでは、日本社会の情報システムプロジェクトではなじみにくいことが想定される。

米国由来の考え方には含まれない新たな心理的要素として一体感の醸成が必要である。過去に行った研究会活動において、プロジェクトマネージャおよびメンバのためのパターンランゲージ「理想の実現」を作成した。

- ・ IS技術者のためのPsytech研究会(2017年度から2019年度)
- ・ IS技術者のためのPsytech2020研究会（2020年度から2022年度）

この「理想の実現」では、プロジェクトの重責を担うプロジェクトマネージャがパターンを用いることにより、「プロジェクト全体が優しく包まれる」ような一体感の醸成を図ることを想定している。プロジェクトマネジメントの現場でパターンを用いたメンタルプロセスのPDCAをプロジェクトで実践することを想定した研究を推進する。これにより、ポジティブメンタルヘルスの観点からIS技術者のwell-being（精神的健康）を実現することを目指す。

*2)メンタル・プロセス・マネジメント：「新情報システム学序説 情報システム学会新情報システム学体系調査研究委員会編」において、プロジェクトマネジメントの機能、役割を構成するプロセスとして、従来の「プロジェクトマネジメント・プロセス」および「ソフトウェア・エンジニアリング・プロセス」に加えて、「プロジェクト・メンタル・プロセス」が重要であると示されている。

6. 主たる活動場所

オンラインまたは都内会議室など

7. 活動計画（概要）

1年目： 1) 基礎情報学の専門家による「心的システムの4モード」講演会
2) パターンランゲージの実証研究

2年目： パターンランゲージの幅広い普及に向けての検討

8. メンバ構成（氏名、所属など）

三村 義利（会員）、株式会社パソナグループ

小林 斗南（会員）、（所属なし）

五十井 薫（非会員）、一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

以上